

都市再生整備計画 事後評価シート
尾張旭市やすらぎ拠点地区

令和7年3月

愛知県尾張旭市

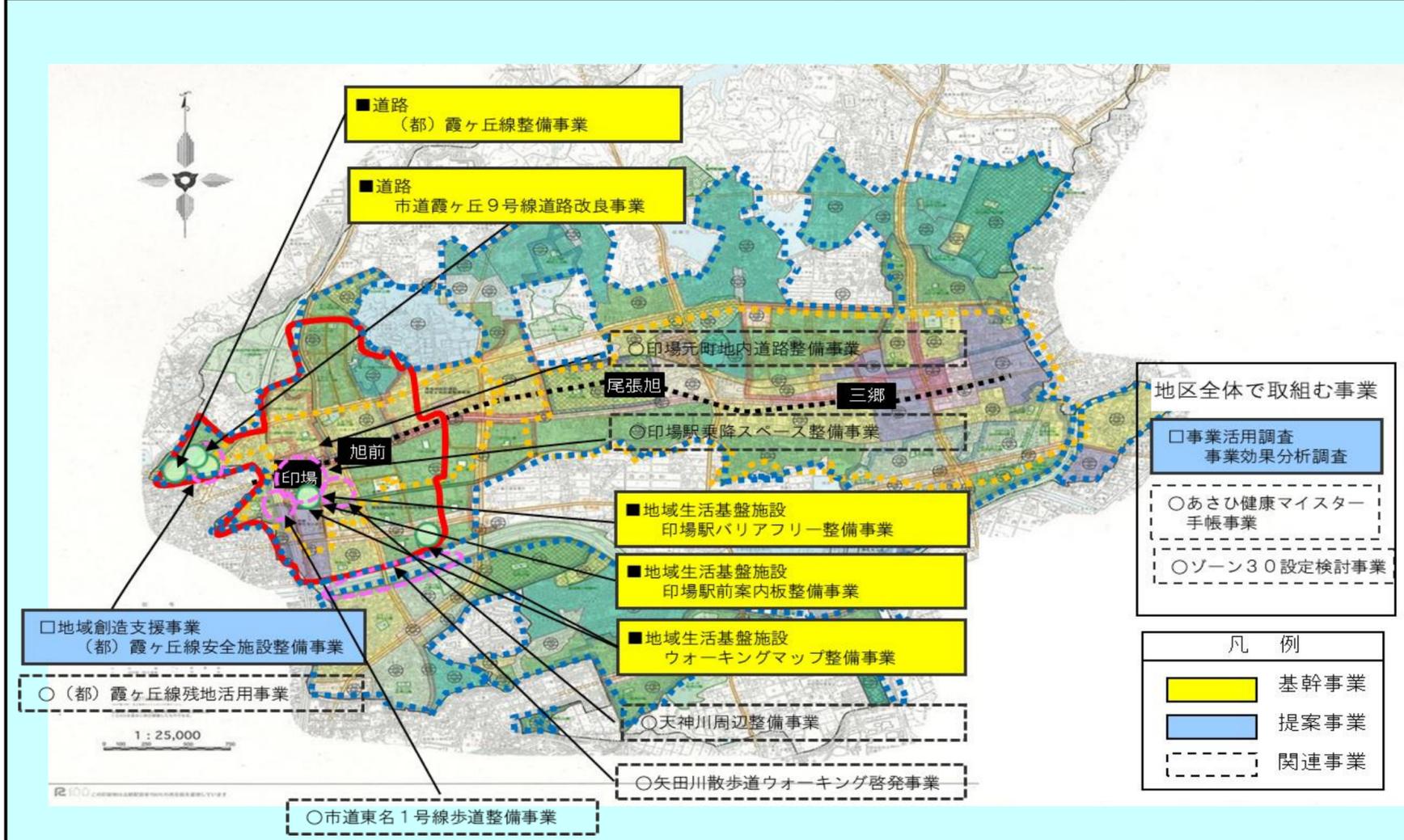
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名	尾張旭市		地区名	尾張旭市やすらぎ拠点地区			面積	220ha	
交付期間	令和3～6年度		事後評価実施時期	令和6年度		交付対象事業費	146.5	国費率	0.45			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	市道霞ヶ丘9号線道路改良事業、印場駅バリアフリー整備事業、印場駅前案内板整備事業、ウォーキングマップ整備事業									
		提案事業	(都)霞ヶ丘線安全施設整備事業、事業効果分析調査									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業										
	新たに追加した事業	基幹事業	(都)霞ヶ丘線整備事業	名古屋市の道路整備に合わせて、接続箇所である道路築造を実施			影響なし					
		提案事業										
交付期間の変更	当初	令和3～7年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし							
変更	令和3～6年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	名鉄瀬戸線の駅及び駅周辺の整備や利便性に満足している市民割合	%	26.0	R1	35.3	R6	45.8	○	あり なし	印場駅バリアフリー化をはじめとして、駅利用の利便性・安全性向上が図られ、市民の満足度も着実に向上した。	-
	指標2	年間の人身事故発生件数	件	23	R1	15	R6	23	×	あり なし ●	交通事故の発生件数抑制にはつながらなかったが、交通安全施設や歩行者空間整備により、歩行者の安全性は向上している。	令和7年4月
指標3	健康な生活を送っている市民割合	%	56.1	R1	61.2	R6	61.4	○	あり なし	マップ整備によるウォーキングコースの周知や道路環境の整備により、健康づくりのための環境が構築され、健康に関する満足度も着実に向上した。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	歩道整備率	%	24.3	R2	-	-	24.8	-	-	市道霞ヶ丘9号線道路改良事業をはじめとして、歩道の整備が進んだことにより歩行者空間が充実し、歩行者の安全性が向上した。	-
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等			
	モニタリング	都市整備課が中心となり、定期的に事業進捗状況や、事業進捗上の問題点について関係各課と連携して確認する			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● ● ● 事後評価に反映				
	住民参加プロセス	(都)霞ヶ丘線残地整備について、周辺の住民から提出された要望を参考に、住民ニーズにあった整備を検討			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● ● ● 住民主体の利用および維持・管理等の促進				
	持続的なまちづくり体制の構築	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● ● ●				

様式2-2 地区の概要

尾張旭市やすらぎ拠点地区(愛知県尾張旭市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標「歩いて人もまちも健康になるまちづくり」 目標1: 駅を拠点に移動しやすいまちづくり 目標2: 安全・安心に歩いて暮らせるまちづくり 目標3: 楽しく歩いて、健康増進が図れるまちづくり	名鉄瀬戸線の駅及び駅周辺の整備や利便性に満足している市民割合	%	26.0	R1	35.3	R6	45.8	R6
	年間の人身事故発生件数	件	23	R1	15	R6	23	R6
	健康な生活を送っている市民割合	%	56.1	R1	61.2	R6	61.4	R6



【霞ヶ丘線安全施設整備事業】



【(都) 霞ヶ丘線整備事業】



整備前



整備後

【ウォーキングマップ整備事業】



整備前

整備後

まちの課題の変化
 ○名鉄印場駅を含む通路等はバリアフリー化されておらず時代に合った基盤整備をする必要がある。→印場駅バリアフリー整備事業等により、印場駅の利便性・安全性が高まった。
 ○区域内の土地区画整理事業が実施されていない地区を中心に、歩行空間を整備する必要がある。→歩行者空間の整備により、歩行者の利便性・安全性は高まった。ただし、歩行空間整備が交通事故発生の抑制に繋がっていない面があり、総合的な交通安全対策が必要
 ○ウォーキングコース等の周知や歩きたくなる歩行空間の創出をする必要がある。→歩行空間の充実やウォーキングマップ整備等により、健康に生活できているという市民の実感が高まった。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)
 ■印場駅の利便性・安全性の維持・充実→整備した施設等の適切な維持・管理と印場駅の利便性・安全性の更なる向上(印場駅周辺のバリアフリー化、道路環境の整備)
 ■安全で便利な歩行空間等の維持・充実→歩行空間にある施設の利便性・満足度の更なる向上(印場駅周辺の歩行環境を整備、道路環境の整備)
 ■交通事故の抑制に繋がる交通安全対策の実施→安全で利便性の高い道路等の整備と交通安全活動等の実施(印場駅周辺の歩行環境を整備、交差点改良や防護柵の設置)